

り越えることができる魅力です。これこそ、私の独断ですが、まず集会活動には、子ども同士の関わり合いを作り出す力があると思います。それは同時に、学級に明るいトーンを生み出すものでもあります。同時に、その関わり合いの中で、自然のうちに協力体験を作り出すことが出来るものです。子どもに「協力するのが当然だ」と10回言うより、1回の集会活動を仕組んだほうが良いように思うのです。また、学校現場はだんだん忙しくなっています。そんな中で子どもたちの創造性は摘み取られていく傾向にあります。創造性をより鍛えるためにも集会が必要だと考えます。これらのことから、集会活動の意義をまとめてみると、次のようになるのではないかと思います。

☆学級生活を、明るく楽しいトーンに包み込んでしまう。

☆子どもたちの自主性を育てる。やれば出来る、という成功体験を仕組みやすい。

☆子どもたち一人ひとりのよさを見つけることが出来る。個性が生かされる活動である。

☆学級に一つのまとまりを作ることが出来る。

☆企画体験を自然のうちに仕組むことができる。このことは、お世話をする楽しさへ転移させることが可能である。

☆学級目標を具現化する最短距離である。

ここで別の話になりますが、よりよい学級をつくるための2つの条件をまとめてみます。

まずは、学級のリーダー（メンバー）シップを育てるための条件です。

◇集団活動のめあてづくりに全員が関与し、共通理解できていること。

◇集団活動のめあてを到達するための方法を共有化すること。

◇活動にあたって、役割分担が出来ること。

◇メンバー間に心理的な結び付きや所属・連帯意識があること。

◇温かい集団規範があり、統制力を持つこと。

◇個人的な要求が充足されること。

次に、子どもたちが自分たちの学級を魅力的だなと感じるための条件です。

◇学級の中に一人ひとりの子どもの居る場所がある。

◇自分の話を聞いてもらえる人がいる。

◇一人ひとりの子どもに、自分が人の役に立っているんだという自覚がある。

◇そこに居ることが楽しい。

◇自分や学級集団が高まっていくという自覚がある。

これら2つの条件は、集会活動で達成できるものばかりであることに気付かれたと思います。以上の点から、集会活動に重点をおく必要があると考えるわけです。

これまでにまとめたことをもとに、集会活動という集団活動がどんな教育力を有しているのか、まとめてみました。

■大勢でなければ得ることの出来ない喜びや楽しみを得ることができる。

- 人と協力することの難しさ，楽しさを共有しながら，力を合わせることの大切さを体験させることができる。
- 様々な活動を通して一人ひとりの子どもの可能性を開くことができる。
- 授業では学ぶことのできない知識や技能を身につけることができる。

2 冬の学習会 感想 その2

★感想のベスト4です。

- 1 密度が濃かった
- 2 杉田調査官のお話で特別活動が重要視されることが間違いないと確信できた
(講演がよかった。新聞だけでは，理解できないことも多いので)
- 3 橋本先生のお話を初めて聞いた
- 4 参加されていた皆さんの熱いまなざしに刺激を受けた

★同じく感想ベスト5を

- 1 杉田調査官の講話
 - ・改訂情報はもちろん特活のこれからの重要性ならびに研究，実践のやりがいを感じさせられました。
- 2 梶田先生の熱意
 - ・梶田先生は最初の30分話をされただけで，初めて来られた人にとっては多くの実践者の一人に思われたかも知れませんが，津村先生と共に定期的に学習会など開かれたり各地の研修会に出られたりと，その姿勢には頭が下がります。今回改めて，それを感じましたし，負けてはいられないと鼓舞させられます。
- 3 DNA
 - ・橋本校長先生率いる，新潟の黄門様，助さん格さんの話に出てきた「特活のDNA」という言葉。それは新潟の彼らだけに存在するものではなく，全ての教師と児童生徒の間にあるものであり，そうあるべきと感じました。
杉田調査官の講話にも恩師の話がありました。あれも教師の姿勢が子どもに響いて何かが伝わり残っているものという意味では「DNA」ではないかと捉えられました。その言動などによって子どもに教師の思いや願い，熱意を感じさせられるのが，教師の資質とも言えるのではないのでしょうか。
- 4 模擬学級会
 - ・わがまま平野氏による演習でした。
正直もう少し時間的にも内容的にも深めたいなあと思いました。各先生はどうするのか，だけでなくそこにあるバックボーンはどんなもの(理論，理想など)なのかまで出しあえれば，よりよかったかなと。
さらには，平野流というものも披露いただければなお。
- 5 懇親
 - ・特活は「望ましい集団」がポイントです。教員も同じです。だから特活の研修会

ではよくエンカウンター的な導入がよく行われますよね。わたしもそれが楽しみ
のひとつであります。

今回もちよとした合間に「どうも、ご無沙汰してます。」などと旧知の方とふ
れ合えました。ただ夜の特別活動の方に行かれず、懇親は不完全燃焼に終わって
しまったのが残念でなりません。みなさんもぜひ懇親会があれば参加しましょう。
以上、公私混同ベスト5でした。

★今回の学習会で感じたことをまとめます。

- ・教師という仕事はいい仕事だな～ということの再認識（様々な先生のお話から）
- ・これからの特別活動について
- ・地道な教育活動の大切さ（それぞれの先生方の実践から）
- ・様々な地域の先生との交流
- ・子どもたちの自主性を培うこと（特別活動を通して）の大切さ、手法など

でしょうか？ 密度の濃い、研修ができたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

★今回の「ネットワーク」はとてもスピーディーな展開に頭がオーバーヒートでし
た。一人ひとりの発表の時間が短く「もっと聞いていなかったなあ」と思うほど
の充実ぶりでした。

それぞれの先生への感想はあるのですが、書き出すと膨大な量の文字になると思
うのでひとつだけ。

今回なんと言っても新潟三人衆の掛け合いが見事でした。ガチンコ対決に見てい
るこちらがドキドキしました。そして知的好奇心がゆさぶられました。やり方が
違う中に共通した「子どもを大事にする」「子どもを成長させる」という情熱に
自分のやり方を探っていかなければいけないなという危機感を感じました。もち
ろん今までも「自分流」を模索していましたが、まだまだな自分を感じることが
でき、それはなんだか最近感じていなかったもので、これで自分もまた成長でき
るなと一安心しています。

日本は広く全国にはまだまだ強烈な実践家がたくさんいます。その人達に少しで
も追いつけるよう、現状に満足することなくこれからも自分を磨いて、足下から
固めて行きたいと思います。

★学習会を振り返ってのベスト5です。

第1位 新潟の先生達の人間性，というか，生き方が素敵だった。

そして、みんなの心が熱かった。語り尽くせないので、あえてこれだけ
にしておきます。

第2位 調査官の話や他の先生の話聞いて、特活をやっという決めて良かった
と感じられたこと。人を幸せにすることができるかもしれない。

第3位 平野先生の学級会の進め方

自分が悪いスパイラルにはまっていくときの状態を客観的に理解できた。

第4位 特活が元気な形で改変され、重要度が増すことが分かった。

第5位 多くの先生と話をすることができ、勝手な仲間意識が湧いた。嬉しかった。

3 特別活動 実践の課題～アンケートのまとめ その4

山口県内小学校の特別活動主任からいただいたアンケートの集計結果 第4弾です。
今回は、各校の特別活動主任が、学級づくりについて課題ととらえていることをまとめてみました。

- ◇学級内の温かな人間関係作りにどのように取り組んだらよいか
- ◇児童同士の間関係が固定化している傾向の中で、揺さぶりを入れるにはどのような手だてが考えられるか。
- ◇対人関係をうまくとれず、集団に参加しづらい子供への対応の仕方
- ◇子ども同士・子どもと教師のより「よい」コミュニケーション・人間関係づくりのあり方・方法
- ◇保育所からずっと同じメンバーで学習したり生活したりしてきているので、友達に対して「〇〇君は…な人。」と固定的な見方をしてしまう。新たな友達のよさを理解させるにはどのような支援をしたらよいか。
- ◇少人数学級では、子ども達の人間関係が固定化してしまう傾向が強い。そんな中で、よりよい人間関係を創っていくことは時としてとても難しいし、一度こじれるとかなり尾を引く。「どうせあの子はあんな子」という固定観念を変えていくことは難しい。
- ◇人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成に役立つ実践が知りたい。
- ◇自分たちの目の前の問題として命を大切にすること（実践事例）
- ◇子ども達の輝いた目を生んだり、絆を深めたりするための具体的な手段・実践例
- ◇他教科・道徳などとのより効果的な関連
- ◇学級づくりに役立つゲーム等
- ◇自己解決能力を高めること（実践事例）
- ◇支持的風土を作り出すための取り組みと教室掲示の工夫
- ◇学級での話合いの持ち方について（自分たちの問題を真剣に捉え、解決に向けて取り組んでいこうとする姿勢をどうすれば育んでいけるか）
- ◇話合い活動を中心に実践されている例があれば教えていただきたい。
- ◇話合い活動を子どもたちが進めていけるようにするための指導法
- ◇時間をかけずに、司会する能力を高めるポイント（実践例）
- ◇校外的な活動をどのように取り入れていくか。
- ◇子どもたちが本当にやってみたいと感じる活動を、年間を通してたくさん取り入れている例
- ◇学級目標の設定の仕方、あるいは、評価の仕方について有効な方法を学級の話合い活動（学級会）との関連をふまえて教えてほしい。
- ◇意欲的に係活動に取り組まない児童を意欲的にさせるポイント（実践例）
- ◇日常生活の中で特活（係活動、話合い活動等）の時間の確保について

- ◇全員が意欲的主体的に取り組む学活
- ◇問題点の解決だけに終わらないようにするための学級活動の取り組みについて
- ◇子どもが自主的に動き出す魅力ある学級活動のあり方
- ◇子どもが自主的に活動するための教室環境の整え方
- ◇子どもの発想が生かされる学級づくり
- ◇6年間を見通した学級経営
- ◇学級の中に向上的な気運を高めるにはどうしたらよいか。
- ◇子ども達は、一人ひとりの生活環境がかなり違っており、また、情報をいろいろなどころから得ている。そうした中、子ども達の、目的意識や考え方がかなり違っており、学級としてのまとまりを欠くことが時としてある。こうした、子ども達を、一つの学級として、同じ目的意識をもった中で育てていくにはどうしたらよいか。
- ◇お互いを認め合い、ともに高まる学級づくりについて
- ◇リーダーの育成
- ◇担任の学級経営に対する思いと児童の実態とで、取り組み方は様々にかわると思うが、適時性を考えると1学期から3学期までを通じての系統的な活動パターンというものはあるのだろうか？
- ◇軽度発達障害の児童も含めて、コミュニケーションづくりの苦手な児童も学級の中で輝ける学級づくりの手だて

4年前に実施したアンケートの結果を4回にわたってお知らせしてきました。書いていただいたのは4年前ですが、そこに書かれている課題は、今も同じようなものが多いように思います。

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第53号は2月中旬ごろ発行予定です。

次号は、集会活動を始めるための布石について書いてみます。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は213名です。どんどん読者が増えてきています。嬉しい限りです。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、と

いうことをお知らせください。

先日、中教審の答申が出されました。新しい特別活動がどうなるのかについても、可能な限り書いていこうと思います。

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

2月は、学級づくりのまとめの時期でもあります。担任としてどのような作戦を練って、それぞれの学年でどのように学年末を締めくくるのか。目の前の子どもたちをどのようにして次の学年に送り出すのか、その実践について情報交換できたらと思います。先生方が取り組んでおられる実践を紹介してください。

本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

- 4月頃 出会いの演出・新学期の学級経営
- 5月頃 連休明けの学級経営のポイント
- 6月頃 室内でできる簡単イベント
- 7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ
- 8月頃 子どもとのつながりを考える
- 9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み
- 10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて
- 11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり
- 12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり
- 1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす
- 2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ
- 3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====